

勝部市長の お仕事百景

シリーズで勝部市長の仕事を紹介しつづけます



10/9 2期目スタートの日

2期目のスタートの日。玄関で職員から花束をいただき、その後、就任式に臨みました。新たな挑戦の始まりです。放射能汚染対策など市が直面する課題解決に向け、悔いのない仕事をしたいと思います。職員には緊張感を忘れず、日々奮闘するよう話しました。



10/22 岩手県市長会による 県知事への要望書提出

岩手県市長会による来年度予算編成に対する提言書を県知事へ提出。県内各市の課題解決に向け、県の来年度予算に反映するよう提言してきました。23、24の両日は上京。環境省、農水省、地元選出国會議員などと本市の課題について懇談、申し入れをしてきました。



一関・平泉 定住自立圏構想 協定を締結。定住促進に向けて連携を強化

本年度中に「一関・平泉定住自立圏構想」を策定する本市と平泉町の同構想形成協定調印式は10月25日、市役所本庁で行われ、勝部修市長と菅原正義町長が協定書に署名、押印しました。

今後は、具体的な事業計画となる「定住自立圏共生ビジョン」を作成します。住民や関係者で構成する懇談会で素案を作成し、両轄地区広域市町村圏協議会の総会で決定します。



協定協定書に署名・押印する
勝部修市長と菅原正義町長

ソバと大豆は、県が行う「県産農林水産物の放射性物質濃度の検査計画」に基づく検査が終了まで出荷などを自粛するよう要請されています。

このうちソバの出荷前検査は10月から始まり、結果が判明している次の地域で自粛が解除されました。大豆の検査は、11月上旬から開始します。

○ソバの出荷・販売が可能になった区域(11月5日現在)：【一関】旧萩荘村【大東】旧摺沢町、旧興田村

市民の依頼で市が10月に測定した農林産物は32品目76検体です。このうち、食品衛生法上の基準値(一般食品100ベクレル/キログラム)を超えたものが4検体(野生キノコ類・自家用)、基準値を下回っているものが18品目42検体、その他の30検体は不検出でした。

●本庁農政課農産物流通係 ☎21111(内線8427)

農林産物の放射性物質測定 野生キノコ類が基準値超

ソバは順次自粛解除へ

【千厩】旧奥玉村【室根】旧矢越村

野生キノコ類が基準値超

<表1>放射性セシウム134と137の合計値の検査区分ごと検体数(10月分)

種別		基準値以下の検体数 ()内は「不検出」	基準値超過の検体数
穀類	米	6 (3)	0
	ソバ	5 (2)	0
	タカキビ	4 (2)	0
果実類	柿	9 (4)	0
	イチジク	3 (1)	0
林産物	野生キノコ類	13 (1)	4

●測定検体数が3以上の品目の一覧 ●基準値(一般食品100ベクレル/キログラム)に基づき区分。検出下限値を放射性セシウムの合計で25ベクレル/キログラム以下になるよう測定 ●測定場所 南部農業技術開発センター(花泉町金沢)、北部農業技術開発センター(大東町摺沢) ●測定機器 トライアスラーベクレルファインダー(シンチレーション放射線各種測定器による簡易測定)

一関市の24年度健全化判断比率

全項目で健全化基準をクリア



「地方公共団体の財政の健全化に関する法律(財政健全化法)」に基づいて算定した下表の5つの指標には「健全」「早期健全化・経営健全化」「財政再生」の3段階の基準があり、指標がどの段階に位置するかによって財政の健全性を判断します。

下表の①～④のいずれかが早期健全化基準に達すると、自主的な改善努力による財政健全化が必要で、財政再生基準に達すると、国などの関

与による確実な再生が必要となります。

24年度決算に基づく健全化判断比率は、いずれも健全化基準をクリア。しかし、これはあくまで、法定の指標です。基準を下回れば問題がないわけではなく、他の財政指標も含めて総合的に財政状況を分析していく必要があります。

市総合計画を推進するには、安定した財政基盤の維持が重要です。今後も、財政健全化の推進に努めていきます。

	解説	24年度比率(※)	早期健全化基準・経営健全化基準	財政再生基準	県内13市平均
①実質赤字比率	財政規模に対する一般会計などの赤字の割合	- (-)	11.42%~20%	20%~	-
②連結実質赤字比率	財政規模に対する全会計の赤字の割合(財産区会計を除く)	- (-)	16.42%~30%	30%~	-
③実質公債費比率	財政規模に対する1年間で支払った借入金返済額などの割合	15.3(15.9)	25~35%	35%~	14.1
④将来負担比率	財政規模に対する将来支払う借入金返済額などの割合	132.1(140.3)	350%~		84.8
⑤資金不足比率	公営企業ごとの事業規模に対する資金不足額の割合	- (-)	20%~		

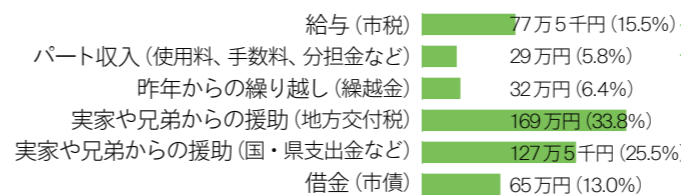
注1) 実質赤字比率、連結実質赤字比率および資金不足比率は赤字が生じていないため、比率が算出されず「-」で表示しています
注2) ※()内は、一関市と旧藤沢町決算の合算により算定した23年度比率です

【その他の財政指標】経常収支比率…市税や地方交付税などの財源が経常的経費にどれだけ使われているかを示す指標。値が低いほど、公共施設などの整備に充てられる財源に余裕がある ●本市87.1 ●県内13市平均88.1 / 財政力指数…標準的な行政サービスの提供に必要な支出に対する市税収入などの割合。値が1に近いほど財政力が強い ●一関市0.35 ●県内13市平均0.39



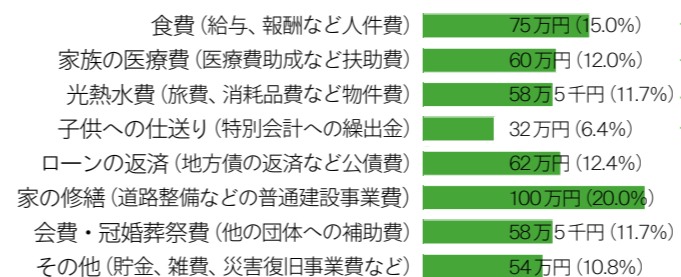
もしも市の財政を家計に例えたら

一関市の普通会計24年度決算額約757億円を年収500万円の「家計」に例えてみました。



自分たちで稼いだお金
104万円

歳入



生活費
225万
5000円

歳出

厳しい財政状況が続きます 皆さんの理解と協力を

一関市財政課
須藤美由紀主任主事



左のグラフは、市の普通会計を家計に例えたものです。一年間の生活費が225.5万円かかるのに対し、自分たちで稼いだお金は104万円。収入の多くを実家や兄弟からの援助(地方交付税や国・県支出金)に頼っています。また、ローンの返済や家の修繕など、簡単には減らせないものもあります。

今後も、厳しい財政状況が続きます。積み重ねることで、効果は必ず表れるもの。市は、さらなる節約に取り組んでいきます。皆さんのご理解とご協力をお願いします。